

東海聖会報

「豊かな交わりを」 須郷 進

「イエスは言われた。『わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』」
(ヨハネ8:11)

「第17回東海聖会」の御言葉のご用を仰せつかった者です。大変光栄に存じますが、何分小さき者ですので、この度のご用が全う出来るように、お祈りをもってお支えくださることをお願い申し上げます。

次いで、自己紹介をさせていただきます。

私は1938年1月生まれで、北海道の小樽出身です。これまでの人生で自分の専門職が3回変わりました。まず、機械のエンジニアとして日鉄鉱業北海道鉱業所と本社三鷹中央研究所に勤めました。ついで声楽家を目指しオペラ歌手(バリトン)の道に進み、ヴェルディのオペラ「ナブッコ」のナブッコ役で舞台に立つ経験もしました。声楽の学び中の1964年に受洗し、暫くして献身し、1979年にインマヌエル聖宣神学院を卒業(41才)。今日まで31年間、東京フリー・メソジスト八王子中野教会で伝道・牧会に当たってきました。今から14年前に新会堂を献堂しましたが、準備の段階で教会の中心的なメンバーが3家族も去って行きました。きよめの信仰に立つ牧師として、何処に問題があるのかと悩み苦しむ祈る日々を過ごしていました。その年の当教会の修養会(外部講師による)で牧師としての課題が示され、解決が与えられました。そして牧師である私自身が変えられた後、新会堂が建ち上がりました。

その時示された聖書は、ヨハネ8章1~12節です。御言葉によって私の福音理解が変わり、さばかない霊性が備えられたのです。以下に、当時示されたことを巻頭言「豊かな交わりを」と題してここに纏めてみました。

私たちの人生を豊かにする交わりが二つあります。神との交わりと人との交わりです。その豊かさは、キリストの赦す愛から出ていることを捉えましょう。

1、愛の人生への招き-----「イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あ

なたの神である主を愛せよ。-----あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』」(マタイ22:37、39)と、神はこの二つの交わりにおいて私たちに愛を求めておられます。神に対しては、全身全霊をもって愛することであり、隣人に対しては、自分と他者に差をつけない愛を求めておられます。これは真実の愛の交わりです。神はこのような豊かな愛の人生を備えて私たちを召して下さっているのです。

2、裁く心を持った人々-----「すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、イエスに言った。『先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。』」(3~5節)ユダヤ人社会のリーダーであった律法学者とパリサイ人たちは、神の律法によって人を裁くのは当然のことと考えていたのですが、イエスさまの答えは「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」(7節)でした。私たちがまた、自分の弱さや罪を棚に上げて、なんと多くの人を冷たい心で裁いてきたことでしょうか。

3、主の十字架の赦す愛-----「イエスは言われた。『わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』」(11節)イエスさまは、主の下に留まり続けたこの女性に対しては、神の律法によって裁くことをなさいませんでした。キリストがおられる所は、裁きの場が赦しの場に変えられているのです。そして彼女の罪を赦し、新しい人生へと出発させてくださいました。

このように新約の恵みとは、神の律法や人の善悪基準が最終結論ではなく、キリストの十字架による赦しが最終結論なのです。

ですから、キリストが与えてくださる救いは、赦す愛から出ています。そしてそれが最終結論なら、私たちがキリストに先んじて人を裁き、キリスト以上に厳しくなつてはいけません。私たちが裁かない霊性をいただき、キリストの心を心として、温かな心ですべての人に接し、また教会の兄弟姉妹と交わっていきましょう。

遠州聖会の報告

インマヌエル 島田教会 浜田耕三

日時:2010年2月21日(日)午後2:30~4:30

会場:インマヌエル浜松キリスト教会

講師:郷家一二三師

(日本ホーリネス教団委員長、坂戸教会牧師)

主題:きよめられた人・教会・教団を求めて

聖書:使徒の働き20章17~38節

先週までの厳しい寒さが嘘のように、突然の春の到来を思わせる素晴らしい天候のもと、第14回遠州聖会が開催されました。143名が出席し、会場は恵みを求める方々で満たされました。

初めに、会場となった教会の有志の方々によるリードのもと、力強い賛美をもって神様を褒め称える恵みに与かりました。

続いて郷家師より、ミレトにおけるパウロの訣別説教から聖言が取り次がれました。初めにご自分の聖潔の証詞を語られた後、上記のテーマのもと、特に「継続して聖潔に生きる」ことを中心にメッセージが語られました。

(1)きよめられた人。教会とは主の血によって贖われた者の群れであり、教会の指導者は聖霊によって立てられ(v.28)、その教会は聖言(聖霊)によって建て上げられて行く(v.32)。それ故に聖化(聖霊経験)は教会が建つか否かに関わる問題である。そし

て聖化される事(献身)を通して、神の働き(福音宣教)が進められる。パウロは患難と迫害が待っている事を承知で、全てを委ねて神のご計画に従った。すなわち聖霊の導きに従い、主(目標)だけを一心に見つめていた。ここに聖潔に生き続けた器の姿を見ることが出来る。

(2)きよめられた教会。聖霊は教会に顕著に働き、その全ての営み(洗礼・聖餐・伝道…また各人への役職賦与…)は聖霊によって為される。ところで信仰は決して一人では持ち続けられず、仲間との深い交わりが求められる。その交わりにおいて(或いは)罪を悔い改め、聖きを追求したい。この聖潔こそが群れを一つと成らしめる。

(3)きよめられた教団。聖い教団(群れ)とは必ずしも信徒、牧師が全く罪を犯さないことを意味するのではない。確かにあってはならないが、たとえ罪に陥ったとしても、真実に悔い改め、主の憐みの中で回復し、むしろその中で更なる恵みに引き上げられ、罪との戦いにおいて勝利する群れでありたい。主(聖霊)は群れを憐み、守って下さる。

説教後に恵みの座が開かれ、聖前において祈り、悔い改め、信仰の壇が築かれました。主の臨在溢れる聖会となり、それぞれが新たな踏み出しをさせて頂きました。

2009年度 東海聖化交友会 会計報告

収入

2008年度繰越	173,021	
会費	51,000	16教会17口
聖会献金	320,381	6月…¥182,013 10月…¥138,368
一般献金	61,000	3教会4件
ハリマン夫人指定	13,000	
雑 収 入	8,000	録音テープ代金等
利子	119	
小計	453,500	
合計	626,521	

支出

講師関連	177,939	謝礼,交通費,おみやげ,接待
通訳者関連	20,000	
奉仕者謝礼	15,000	証人2名・音楽ゲスト
講師渡航費分担	13,130	
会場費	43,000	
東海聖会報	26,355	
会議費	70,196	
事務通信費	41,023	
JHA全国協議会	20,000	
JHAレセプション	23,000	
JHA分担献金	55,140	会費1/3・集会献金・一般献金1/10
慶弔費	2,740	北海道聖化交友会へのみやげ
クリスマス新聞広告	22,000	協賛広告
ハリマン夫人へ	13,000	
雑費	0	
小計	542,523	
次年度繰越	83,998	
合計	626,521	

お知らせ

今号でも図書紹介を書いている副会長の小田 満師は、4月より北海道に転任されました。これまでのお働きに感謝し、新たな任地での祝福をお祈りします。

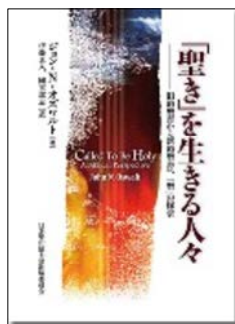
おすすめの本

「聖き」を生きる人々 (Call To Be Holly)

ジョン・N・オズワルト著

(訳・伊藤真人、国重潔志)

日本聖化協力会出版委員会発行
2009年10月18日 2,625円



「バックストン・ノート. キリスト・無尽蔵の富」

B・F・バックストン著

日本イエスキリスト教団出版局発行

2002年、定価1,200円

バークレー・F・バックストン(1860～1946)は、わが国へ宣教師として来日し、山陰松江で、1891年から1902年まで日本聖公会の教会で奉仕した。

イギリスに帰国したバックストンは、日本伝道隊(JEB)を組織して、日本へ向けての超教派的伝道の働きを進めた。それと共に1921～1935年をタンブリッジウェルズ市の聖三一教会牧師として奉仕。それ以後は、テニスの大会で有名なウインブルドンに居住して、宣教師養成学校で教えた。

バックストン・ノートと呼ばれたノート類は、1921年以降の時代に執筆されたものである。旧約聖書9冊、新約聖書9冊の合計18冊が書かれた。日本伝道隊宣教師ミス・ホーアがバックストン家から18冊のノートを譲り受け、現在は京都市右京区内にある日本イエスキリスト教団天授ケ岡教会に保存されている。

「バックストン・ノート. キリスト・無尽蔵の富」は、新約聖書9冊の中の8冊目のノートである。英文が左側、日本語が右側に組版されていて、どちらの方を読んだとしても興味深い。

本書で扱われているのは、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、テサロニケ人への第1の手紙、テサロニケ人への第2の手紙の計5巻の書についての聖書研究ノートである。

内容については、それぞれの書の各節についての霊想のことが、1～3行くらいで記されている。それとともに各書の最初の部分では、各書の命題と思えることが印象深くまとめられている。

エペソ人への手紙では、最も深い霊的真理(富1章7、18節、2章7節、3章8、16節)とある。コロサイ人への手紙では、私たちの命なるキリスト(その栄3章4節)となっている。テサロニケ人への第1の手紙では、聖徒たちを祝福するための主の来臨、との1行が最初に来る。

松浦 剛

本書は三部に分かれています。第一部では、「聖」について主に律法の書から学び、「完全」について主に歴史書から、御霊について主に預言書から学びます。博士の強調整は、「救いのゴールは、物質的、霊的束縛から解放されて自由に生きることではありません。神の特質と性質の中に神と交わりを持つことです。」(51頁)「人の生き様を通して聖を表すよう、神は民を召しておられます。」(49頁)と言うところにあります。

第二部では、ローマ書から「罪人である私たちが罪を犯すことなしに生きることは可能か。それは聖霊の満たしによって可能である」(145頁)こと。また、パウロや他の手紙では「傷のない」、「欠けのない」完全が教えられ(187頁)、勧められていること。その為には古い人を「死」なせること、「殺す」こと、罪の性質は変えられなければならないことを示しています。

しかし、ここで重要なことは「罪の概念」です。「罪」は故意に犯すだけでなく、知らずに犯す罪もあり、「神の完全に届かないものは何であつても贖いの恵みが必要」(236頁)とするのです。この罪性の根絶は十字架によって潜在的におきていること(242頁)であり、御霊の手にナイフを預けて実現するもの(243頁)であると示しています。

第三部では、「聖化」を強調する時に陥りやすい危険性を6点提示し、「全的聖化」の瞬時的経験と成長の両面を強調する必要を勧めています(260頁)。

まさに旧約聖書は創世記から、新約聖書のヨハネの手紙まで一気に駆け抜けて、神が私たちを聖なる交わりに召し、贖いと聖霊の助けを備えてくださったことを示し、聖書の示す聖化を得る信仰のために手をとるように解き明かしている書です。

どんなクリスチャンにも必要ですが、若い方々には是非読んで頂きたい書です。 小田 満

第17回

東海聖会

テーマ「豊かな交わりを」

講師 須郷 進師

1938年生まれ、小樽市出身。エンジニアからオペラ歌手に転身、1964年に受洗し、1979年インマヌエル聖宣神学院を卒業。今日まで31年間、東京フリー・メソジスト八王子中野教会で伝道・牧会に当たってきた。また、東京の西東京地域を中心に9つの教会を擁する東京フリー・メソジスト教団代表役員を務めている。



とき

2010 6 | 26 土 2:30PM
27 日 2:30PM

ところ

活ける
キリスト

一麦教会

名古屋市名東区亀の井2-102

☎ 052-701-4221

今年も例年のように6月下旬に開催されます。恵みの雨が豊かに注がれる時となることを期待しつつ、ご出席ください。（席上献金のときがあります）

東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市中村区中村町7-46
福音センター

☎ 書記 / 0562-97-6468

